

国内マグネシウム 2025 年需要実績/2026 年需要予測

一般社団法人日本マグネシウム協会

(単位：トン)

分類\年	2020	2021	2022	2023	2024	2025	25/24 比	2026 予測	26/25 比 予測
ダイカスト	4,700	5,200	4,900	4,400	4,600	4,600	100.0%	4,700	102.2%
鋳物	100	100	100	90	90	100	111.1%	100	100.0%
射出成形	960	1,000	1,000	1,100	1,100	1,200	109.1%	1,200	100.0%
展伸材	700	800	700	700	900	1,000	111.1%	1,000	100.0%
その他合金	200	200	100	100	100	100	100.0%	100	100.0%
構造材小計	6,660	7,300	6,800	6,390	6,790	7,000	103.1%	7,100	101.4%
アルミ合金添加	14,500	16,500	15,000	14,500	14,500	14,400	99.3%	14,500	100.7%
鉄鋼脱硫	3,000	3,500	3,400	3,080	3,400	3,400	100.0%	3,400	100.0%
ノジュラー鋳鉄	2,520	2,500	2,600	2,300	1,950	2,200	112.8%	2,200	100.0%
チタン製錬	1,000	440	725	1,200	900	800	88.9%	800	100.0%
化学・触媒	1,350	1,300	1,500	1,400	1,500	1,450	96.7%	1,450	100.0%
添加材小計	22,370	24,240	23,225	22,480	22,250	22,250	100.0%	22,350	100.4%
防食その他	1,000	1,230	1,150	800	800	700	87.5%	700	100.0%
内需小計	30,030	32,770	31,175	29,670	29,840	29,950	100.4%	30,150	100.7%
輸出	102	140	490	333	290	333	114.8%	350	105.1%
総需要	30,132	32,910	31,665	30,003	30,130	30,283	100.5%	30,500	100.7%

※マグネシウム地金、ピレット、粉粒等の新材の輸出入量・出荷量を基に算出しています。

<2025 年の需要実績>

- ①2025 年の国内マグネシウム需要量は、構造材向けのマグネシウム合金需要量が前年比 3.1%増の 7,000 トン、添加材向けの純マグネシウム需要量は同増減なしの 22,250 トン、防食その他向けが同 12.5%減の 700 トン、輸出が同 14.8%増の 333 トンとなり、全体では 30,283 トンで同 0.5%の微増となった。
- ②マグネシウム合金を使用する構造材向けは、需要増に繋がるような新規量産品への展開が遅れているが、自動車のモニターフレーム、電動二輪車、音響関連などへの採用も増えてきており、またレース用ホイールなど自動車の既存品も安定的に使用されていることから、合計では前年比 3.1%増で 7,000 トン台に回復した。内訳は、ダイカスト部門が前年増減なしの 4,600 トン、鋳物部門が 100 トン、射出成形部門が 1,200 トン、展伸材部門が 1,000 トンで、それぞれ 1 割程度の若干増、その他合金が同増減なしの 100 トンとなった。
- ③純マグネシウムを使用する添加材向けは、アルミ、鉄鋼、チタン、化学品のどの分野も、国内外の情勢によって一進一退の状態が続いていることから、各分野で多少の増減はあったものの、合計は前年横ばいの 22,250 トンとなった。内訳は、主要なアルミ合金添加部門は、需要が伸びず、リサイクル推進の動きもあり前年比 0.7%減の 14,400 トン、鉄鋼脱硫は同増減なしの 3,400 トン、ノジュラー鋳鉄部門は同 12.8 増と少し回復し 2,200 トン、チタン製錬部門は業界自体が低調だったわけではないがマグネシウムの使用量としては減少し同 11.1%減の 800 トン、化学・触媒分野は同 3.3%の微減となる 1,450 トンとなった。
- ④防食その他は、防食向けは約 100 トンで安定的に推移したが、その他の特殊な用途向けが減少し前年比 12.5%減の 700 トンとなった。
- ⑤輸出は、財務省貿易統計の純マグネシウム地金とマグネシウム合金地金の合計より算出している。

<2026 年の需要予測>

- ①国際情勢の不安定さにより、マグネシウムにおいても原料の安定供給の確保が懸念されるが、国内産業全体への影響も大きく、各分野とも横這いに近い推移が続くものと予測した。
- ②構造材向けは、各分野とも概ね横這い、電動二輪車への使用や難燃合金による技術開発の進展を期待し、ダイカスト分野で前年比 2.2%、100 トンの微増とし、合計では同 1.4%増の 7,100 トンと予測した。
- ③添加材向けも、各分野とも大きな増減がありそうな一年にはならないと予測し、概ね横這いでの推移とした。
- ④2026 年の国内マグネシウム総需要量は、供給面での懸念や、国際情勢の影響もあり、厳しい推移が続くと見られ、前年比 0.7%の微増となる 30,500 トンと予測した。